

## 会長挨拶 会長 鈴木孝純君

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

会長職として6か月が過ぎ、残すところ半年弱となりました。今後は大きな「創立60周年記念行事」が控えております。皆さん方はこれから本格的な準備に取り掛かられると思いますが、一致協力のもと、この記念行事が成功裡に収められることを願っております。

私は会長就任時、60年の節目に原点に立ち返り、ロータリー活動の良さ、深さを再発見する年として、「Rediscover Rotary (ロータリー、再発見)」のスローガンを掲げました。皆さん方は、普段のロータリー活動全うがその良さを再発見する機会になっていると思います。私は会長として各種の会合参加は勿論のこと、横浜市も含めた他クラブのメークアップに5回ほど出席していろいろと学ばせて頂きました。そして、我が西クラブの良さや素晴らしさも多く再発見できました。会長任期中にあと5クラブの出席を考えております。

さて、今年の干支は「丙午(ひのえ うま)」あたりです。「丙」は十干の3番目で、太陽や明るさ、生命のエネルギーを表すとされています。また「午」は十二支の7番目で古くから「馬」にたとえられ、陽の気が強く、成長や発展の象徴とされています。つまり、「丙午」の年は、勢いとエネルギーに満ちて活動的になる年と考えられています。

ここで、十二支についてももう少し掘り下げてみたいと思います。十二支はもともとは動物とは関係なく、古代中国において木星(歳星)が12年で公転することから天を12に分けて「子・丑・寅…」の漢字を割り当てました。しかし、文字が読

めない人も多いため、分かりやすいようにと神の使いとしての動物を当てたのです。そして、十二支は更に、年・月・日・時刻・方角などを表すために用いられました。例えば、方角では、「子」を北とすると「午」が南に当たり、北極と南極を結ぶ子午線という言葉も生まれました。また、1日24時間を12の区間に区切って各2時間単位に十二支を当てました。1日が始まる夜中の0時を中心とする2時間を「子(ね)の刻」とすると12時間後の7番目は「午(うま)の刻」であり、12時ちょうどを「正午」と呼びました。そして、その前の1日の半分を「午の前」として「午前」、正午の後を「午後」と呼ぶようになりました。

また、怪談話おいて、「草木も眠る、丑三つ(うしみつ)時…」で始まるものが多いですが、この「丑三つ時」とは一体何時なのでしょう。丑の刻とは、午前1時から午前3時までです。この2時間を30分刻みで四等分し、「丑一つ」は午前1時から午前1時30分までの間、「丑二つ」は午前1時30分から午前2時までの間、などのように細かく時刻を表しました。つまり、「丑三つ時」とは、午前2時から午前2時30分の間で、正に真夜中です。当時は、真夜中には陰の妖気が最も強くなると考えられ、さらに、丑三つを方角に当てはめると、丑寅(東北)、つまり鬼門なので幽霊が出やすいと信じられていたのです。

このように、十二支を理解すると古典の世界もぐっと身近に見えてくると思います。



### 今間勝見君

芝田さんの年男スピーチに感動してスマイル致します

### 芝田光明君

スピーチご清聴いただきありがとうございました。

### 早坂 剛君

半年間休ませていただき治療に専念してまいりま

今後ともよろしくご指導下さい。





幹事報告  
小野寺佳克君

- 25-26 ガバナーデジグネート決定のお知らせ
- 26-27 年度地区役員推薦のお願い
- 2026 年度 米山奨学生世話クラブ募集のお願い
- ローターリー財画補助金管理セミナー開催の案内  
1/31 山形グランドホテル
- 鶴岡青年会議所新年祝賀会 会長出席  
1/29 東京第一ホテル鶴岡
- 25-26 米山奨学生歓送会開催  
2/7 パレスグランデール
- 年賀状 元米山奨学生馬可さん オクトン
- 荘内日報年賀広告 4 クラブ合同掲載



米山奨学生 ウセイさん



ロータリーの友読みどころ 佐藤正晴君

年男スピーチ 芝田光明君 (好評のため全文掲載)

本日は年男として貴重なお時間を頂戴し、誠にありがとうございます。1966年1月9日丙午生まれ、年男の芝田光明でございます。

今年2026年、私は60年という一つの節目を越えることになりました。人生振り返るには、まだ道半ば。しかし「立ち止まって考える」には、丁度良い年齢になった、そんな気がしております。

そして本日ここに立って、改めて強いご縁を感じております。それは、私が生まれた1966年に、この鶴岡西ロータリークラブも発足しているということです。つまりわたしは、このクラブと同級生なのです。同じ年に生まれ、同じ時代を60年間生きてきた存在でございます。

1966年、日本は高度経済成長の真ただ中でした。「がんばれば、明日はもっと良くなる」そんな空気が、日本中にあふれていた時代です。

私はそんな年に生まれ、同じ年に、この鶴岡西ロータリークラブも地域のため、人のためという志を持って発足した。これは偶然ではなく、何か意味のあるご縁だと感じております。

話は変わりますが、私がこのクラブに入会してから、ずっと感じてきたことがあります。それは、鶴岡西ロータリークラブの先輩方は、本当に品があるということです。

声を荒げることもなく、ひとをさげることなく、しかし言うべきことは、きちんと、穏やかに伝える。今まで品とは無関係な私でしたが、わたしは、心の中で「いつか自分も、そういう品のある大人になりたい」そう思うようになりました。ただ正直に申し上げますと、60年生きてきた今でも、まだまだ常識知らずだなア、と感じる場面も多々ございます。わかっているつもりでも、行動が伴っていません。配慮

が足りなかったりする。そんな時に、鶴岡西ロータリークラブの先輩方の一言少ない助言や、黙って示して下さる姿勢に、何度も気づかされたてまいました。

そんな私ですが、ある時、ある方から、こう言われたことがあります。

「芝田さんって、品がありますよね」

その瞬間、正直、嬉しくて胸の奥がじんわりと温かくなりました。それは、自分が立派だからではなく、この鶴岡西ロータリークラブという環境が、私を育ててくれた証だとそう思えたからです。

品というものは、身につけようとして身につくものではなく、人に囲まれ、時間をかけて、少しずつしみ出てくるものだ、今は感じております。

私は、丙午(ひのえうま)生まれです。火の年と言われ、勢いが強い、燃えすぎるともいわれます。若い頃は、その火を制御できず、勢いだけで突っ走っていた時期もありました。

しかし今は、火は人を照らし、温めるもの。そう使える年齢になったのだと思っております。

鶴岡西ロータリークラブが、60年間もつづいてきたのも、奉仕の精神、仲間を思う気持ち、そして上品さ、そういった火を絶やさず守って来られたからではないでしょうか。

最後になりますが、1966年生まれの年男として、一言申し上げます。

同じ年に生まれた鶴岡西ロータリークラブと、これからも一緒に年を重ねていけることを、心から誇りに思います。今年一年が、皆様にとって、実り多き1年になりますことを祈念し、年男の挨拶とさせていただきます。

